



「新・関西観光・文化振興計画（仮称）」中間案について

令和3年9月23日

広域観光・文化・スポーツ振興局

「関西観光・文化振興計画」（平成24年3月策定）については、令和4年3月をもって計画期間（10箇年）の満了を迎えることから、新たな計画の策定に向けて、有識者等で構成される策定委員会を設置して昨年度から検討を進めております。

この度、計画の中間案を取りまとめましたので、御報告いたします。

記

1. 趣旨

文化庁の関西移転や、大阪・関西万博開催を活かし、関西が一丸となって新たなステージへの成長につながる、国際観光振興及び文化振興の戦略を策定する。

2. 計画期間

令和4（2022）年度から令和8（2026）年度までの5年間

※ 新型コロナウイルス感染症の影響や国際観光の回復の状況を踏まえて戦略や取組を見直す必要や新たな課題等が生じた場合は、計画の見直しを行う。

3. 計画のポイント

（1）将来像を「新時代の文化・観光首都の創造」に設定

（2）将来像実現のための戦略

□インバウンド再開までの取組

■戦略1 文化をはじめとする多様な関西の魅力を活かした持続性の高い観光の推進

■戦略2 関西の観光・文化分野におけるDXの促進

■戦略3 多様な観光客への対応

■戦略4 関西文化に親しむ機会の創出

■戦略5 関西文化の次世代への継承と発展

■戦略6 推進体制の確立・強化

4. 今後のスケジュール（予定）

令和3年10月 産業環境常任委員会への中間案報告

パブリックコメント実施

令和4年1月 広域連合委員会において最終案確定

2月 広域連合議会全員協議会への最終案報告

3月 広域連合議会への最終案上程

(参考) 策定委員会委員

(五十音順、敬称略)

岡部 ジェム	関西エアポート株式会社 航空営業部次長
河内 厚郎	はなやか関西・文化戦略会議委員、 公益財団法人阪急文化財団理事、兵庫県立芸術文化センター参与
北村 豪	公益社団法人関西経済連合会 都市・観光・文化委員会副委員長、 株式会社 JTB 執行役員法人事業本部関西広域代表
木ノ下 智恵子	国立大学法人大阪大学共創機構准教授
坂上 英彦 (座長)	関西広域連合広域計画等推進委員会委員 はなやか関西・文化戦略会議委員、嵯峨美術大学名誉教授他
東井 芳隆	一般財団法人関西観光本部専務理事
橋爪 紳也	大阪府立大学研究推進機構特別教授、大阪府立大学観光産業戦略研究所所長、KANSAI 統合型リゾート研究会座長

「新・関西観光・文化振興計画（仮称）」中間案の概要

I 計画策定の趣旨・計画期間

関西の観光・文化は、2022年の文化庁の関西移転、2025年の「大阪・関西万博」の開催等を好機と捉え、ウィズコロナ・アフターコロナ、持続可能な開発目標（SDGs）、DXなどの時代の変化に対応する必要がある。関西広域連合では、観光、文化が互いをさらに高め合い、関西が一丸となって新たなステージへの成長につながるよう、国際観光振興及び文化振興の戦略を策定する。

計画期間は、令和4（2022）年4月から令和9（2027）年3月までの5年間とするが、新型コロナウイルス感染症の影響やインバウンドの回復の状況により戦略を見直す必要や新たな課題等が生じた場合は、計画の見直しを行う。

II 関西の観光・文化をとりまく現状と課題

観光・文化をとりまく現状

- （1）国際観光の状況
- （2）文化資源の集積と多様化
- （3）文化庁の関西移転を契機とした新たな文化行政の推進
- （4）「大阪・関西万博」等をはじめとする国際イベントの開催等
- （5）観光・文化を取り巻く新たな潮流
（持続可能性（SDGs）、デジタル技術の進展等）
- （6）新型コロナウイルス感染症の影響

これまでの取組 — 関西広域連合による前計画期間

（2012年4月から2022年3月）の主な取組—

- （1）広域観光の展開による関西への誘客
- （2）官民が一体となった広域連携DMOの取組の推進
- （3）戦略的なプロモーションの展開
- （4）外国人観光客等の受入を拡大するための観光基盤の整備
- （5）関西文化の振興と国内外への魅力発信及び連携交流による関西文化の向上
- （6）関西文化の次世代継承
- （7）情報発信・連携交流支援・人づくりを支えるプラットフォームの活用
- （8）文化庁の関西移転を見据えた新たな関西文化の振興
- （9）その他の取組



観光・文化をとりまく課題

- （1）関西を輝かせる地域文化等による持続性の高い観光の推進
- （2）関西の観光・文化の更なる魅力の向上やDXの促進
- （3）安心・安全に旅行できる受入環境整備や観光コンテンツの多様化
- （4）文化庁の関西移転を契機とした文化観光の推進と文化に親しむ機会の創出
- （5）文化の次世代への継承と発展

III 観光・文化を通じた関西の将来像

新時代の文化・観光首都の創造

関西は、文化庁の関西移転、大阪・関西万博の開催などに象徴される新時代を迎えている。

新型コロナウイルス感染症の拡大により世界中が難局にある中、文化や観光を、「人の精神を支える基本的なものであり、普遍的な価値を有し、SDGsが目指す未来を切り拓くもの」と捉え、世界の人々があこがれる、新しい時代の「文化・観光首都」関西を創造していく。

IV 将来像実現のための戦略

ロインバウンド再開までの取組

インバウンド観光が復活するまでは、国内の観光需要喚起に向け情報発信等を実施する。特に日本で暮らす外国人への情報提供や、在日外国人の視点や影響力を活用した取組を推進する。

また、インバウンド観光受入の再開の際には、各地で実施している感染対策などの情報も発信するほか、オール関西でインセンティブ事業を実施するなど、総力をあげて取り組む。

■戦略1 文化をはじめとする多様な関西の魅力を活かした持続性の高い観光の推進

観光客の分散化と一部観光地の過度な混雑解消による、観光客、地域住民、観光事業者に「三方よし」の質の高い観光の実現と、関西の観光資源を活かしたテーマ観光などに取り組み、関西広域への来訪者の周遊を促す。また、外国人観光客へのホスピタリティを高めるための人材育成や災害時の情報提供など、安心・安全な旅行観光の整備を推進する。

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| ① 文化を活用した関西ブランド力の向上と情報発信 | ② 文化財・生活文化等の観光資源化 |
| ③ 「歴史・伝統・文化」等による観光の推進 | ④ 観光に従事する人材の育成 |
| ⑤ 安心・安全な旅行環境の整備 | |

■戦略2 関西の観光・文化分野におけるDXの促進

構成府県市等が有する観光・文化に関わる各種データの共有・活用を検討するとともに、マーケティングや情報発信におけるDXを促進する。また、AR、VR等の技術を活用し、観光・文化資源のコンテンツ化や交通利便性の向上を促進・支援する。

- | | | |
|------------------|----------|-----------------|
| ① 効果的なマーケティングの実施 | ② 新技術の活用 | ③ 交通アクセス等の利便性向上 |
|------------------|----------|-----------------|

■戦略3 多様な観光客への対応

誰もが安心して関西の観光を楽しむことができるよう、食や宗教、生活習慣などに対応できる環境の整備を図るとともに、多様なニーズや旅行スタイルに応じたコンテンツの創出に取り組む。また、社会潮流の変化に伴って新たに生まれる観光ニーズへの適切な対応にも努める。

- | | |
|--------------------------|----------------|
| ① 生活習慣や文化の違い等に配慮した受入環境整備 | ② 多様なニーズへの対応強化 |
|--------------------------|----------------|

■戦略4 関西文化に親しむ機会の創出

関西にゆかりのある文化人の記念となる周年などの機会を活かした取組や、まちづくりに文化を積極的に活用する取組を支援することで関西文化に親しむ機会を創出する。また、地域の相互交流等による関西の文化力の向上を図る。

- | | |
|----------------|---------------------|
| ① 関西文化の振興と連携促進 | ② 連携交流による関西文化の一層の向上 |
|----------------|---------------------|

■戦略5 関西文化の次世代への継承と発展

子どもに文化体験の機会を提供し、文化を支える活動への啓発と次代の文化を担う人材育成を図る。また、アーティストへの効果的な支援情報の提供や他分野連携により、文化活動の支援・発展を図る。

- | | |
|-------------------|---------------|
| ① 関西文化の次世代を担う人材育成 | ② 関西の文化活動への支援 |
|-------------------|---------------|

■戦略6 推進体制の確立・強化

関係団体がそれぞれの強みを最大限に発揮し、役割分担しながら取組を進める。観光分野においては大阪・関西万博の開催を見据えた国際観光を、文化分野においては文化庁と連携した総合的・戦略的な文化振興策を推進する。

- | | |
|-----------------------|---------------|
| ① 関西文化を支えるプラットフォームの活用 | ② 関西広域の国際観光推進 |
| ③ 関西広域連合の各分野との連携 | |

V 計画の目標

訪日外国人旅行者数や外国人旅行消費額などこれまでの指標に加え、質重視の観光指標の導入や人材育成、地域等への貢献度、他分野との連携など多方面から指標を検討する必要があるが、新型コロナウイルス感染症の影響やインバウンドの回復時期等が見通せないため、計画の見直しを行う際に、指標及び目標値を設定する。